

# アーバンデータチャレンジ東京 2013

## 実行委員会（第2回）

### 議事録（案）

日時：平成 25 年 5 月 9 日（木）18:00～20:00

場所：東京大学駒場第2キャンパス（Dw601）

#### 【出席者】（敬称略、順不同）

東京大学：西沢・関本・樫山・長井、日本工営：伊藤、長大：増田、東京都北区：和田、国際航業：山本、建設技術研究所：藤津、IIJ：福嶋、伊藤、東京都財務局：岡田、東京都建設局：増田、JIPDEC：松谷・郡司、インディゴ：高橋、OpenKnowledgeFoundationJapan：東、GeoRepublicJapan：関、公共イノベーション：川島、NTT 空間情報：青島、経産省：中井

（Skype での参加：慶応大学：神武、立命館大学：瀬戸、朝日航洋：嘉山）

#### （資料）

資料 1：実行委員名簿

資料 2：FB、HP のご案内

資料 3：自治体アンケート結果

資料 4：6 月 10 日キックオフシンポジウム案内文（案）

資料 5：その他協議事項

参考資料 1：前回議事録

参考資料 2：スケジュール表（再掲）

#### ■FB、HP の開設

○アーバンデータチャレンジ東京 2013（以下、UDC 東京 2013）に関する情報提供のため、Facebook、HP を開設した。それぞれの役割は以下の通りとする。

- ・ Facebook (<https://www.facebook.com/UDCT2013>)

⇒広く一般に情報提供することを目的とし、適宜話題をピックアップし、情報は完全公開の形とする。

- ・ HP (<http://aigid.jp/GIS/udct/2013/index.html>)

⇒実行委員会やイベント等の予定や過去の会議資料を公開するが、議事録等是一部非公開とし、関係者のみアクセス可能として情報共有を図る。

## ■自治体アンケート結果（速報）に関する意見

○5月9日時点の自治体アンケート結果を基に意見交換がなされた。アンケート結果、意見交換について、以下にその概要を示す。

### 【自治体アンケート結果の概要・意見（詳細は資料3参照）】

- ・5月9日時点では、参加可否回答数：74、6月10日キックオフイベント参加可能自治体：12といった回答を自治体から得ており、調査は継続して実施中である。
- ・イベントへの参加は不可能との回答が多いが、情報提供メールの送付については可能との回答が多い。
- ・第一段階目として、回答の収集率は合格点ではないか。

### 【現状の課題に関する印象・意見】

- ・現状の課題に対しては、回答結果に散らばりが見られた。回答者が担当している業務についてはイメージしやすいが、担当外についてはイメージしづらい（できない）という側面があるのではないか。
- ・「データ」という言葉そのものについても、どのようなものをイメージするかは担当者次第である部分であり、電子化されたものや、紙としてのものなのか、具体例を出しイメージを合わせるような聞き方が今後必要となってくる。
- ・データの使い方に関しても同様であり、どのように使えるのか、どのように使われているのか、といった事例を示すことが有効ではないか。

### 【オープンデータに関する印象・意見】

- ・「オープンデータ」「オープンガバメント」という言葉に関する浸透度が低い（「聞いたことがない」という回答が半数を占めた）印象がある。関連する部署、担当者に伝わっているかという点で疑問が残り、聞き方に工夫が必要ではないか。
- ・アンケートの対象は、「企画系・情報系・土木系・都市計画（まちづくり）」の4部門を対象として行なっているが、本結果では、全ての部門から回答が得られてない自治体も多い。
- ・部門によって取り組み方が異なる面もあるため、部門毎の傾向を見ることも効果的と考えられる。
- ・「オープンデータ」「オープンガバメント」への取り組みについては、自治体としても不安と期待とが入り交じっているのではないか。UDCT2013として、そのような生の声を広く集めていくことが重要である。
- ・また、オープンデータについてはメリットをわかりやすく説明するため、事例をカタログ化していくことも効果的ではないか。
- ・用語としては、今後、IT戦略関連の取り組みに関する情報公開が進むにつれ、より浸透していくものと考えられる。ただし、理解度については注意が必要であり、例えば、ライセンスについて正確に理解してもらう必要がある。

### 【自治体とのコンタクト】

- ・実行委員により、直接自治体へのコンタクトもアンケートと並行して行なっている。また、東京都北区への問合せもあったとのこと。
- ・GIS 関連の自治体が含まれていないこともあり、潜在層はまだ多く存在するのではないか。アンケート結果における自由意見（自治体の生の声）を公開することが、自治体担当者に伝わりやすいのではないか。  
⇒HP にアンケート結果を掲載した。
- ・関西方面でも、興味を示している自治体はあるが、業務外での参加は困難である、といった状況である。

### ■キックオフイベントの内容

- 自治体にも参加いただくキックオフイベントの内容について意見公開がなされた。以下にその概要を示す。

#### 【ワールド・カフェ方式による議論】

- ・ワールド・カフェ方式による議論を考えているが、アウトプットをどのようにまとめるか、グループ分けをどのように行うかを検討している段階である。ファシリテーターは実行委員を想定しており、議論の方向性を明確にしていく。
- ・時間を考慮すると、グループはシャッフルすることはせず、行うとしても1回が妥当ではないか。

#### 【自治体間の情報共有・お悩み相談】

- ・自治体担当が集まり、各自治体の現状や情報交換を行う場を設けてはどうか。イベントにおけるアイスブレイクとしても妥当と考えられ、お悩みリスト作成にも効果的ではないか。

#### 【キックオフイベントの目標】

- ・自治体、シンポジウム参加者問わず、「参加してよかった」と思えるイベントにしたい。アウトプットとしては、自治体のお悩みリストと、それを解決するためのカルテを作成し、将来につなげていくことが目標である。

### ■その他の議論事項

- その他の議論事項に関する概要を以下に示す。

#### 【表彰、民間企業の関わり方】

- ・アプリの実装まで行う主体に対し、補助金を渡すことも一案として考えているが、補助金ではなく、構築における基盤（データ、クラウドによる開発環境 等）を提供する形がよいのではないか。（特に、会社としての参加では、補助金は受け取り難い面がある）
- ・会社としての参加ではなく、個人として参加する場合、5～6人からなるチームとしての参加も考えられる。

- ・自治体とのハッカソンイベントは、実行委員内では事例が無い。実施に制約等があることも考えられるが、勤務時間外（土日等）に行うことが効果的ではないか。
- ・表彰については、アイデア、アプリ、データセット、といったタイプに分け、それぞれの賞を設けることを考えている。その中で、自治体が評価を行う、「自治体賞」があってもよいのではないか。
- ・さらには、最終的な受益者である住民目線での採点（投票等）による評価を行うことも興味深い。

■その他

- 次回は6月25日（火）18～20時を予定する。

以上